まちの暮らし

お祭り

松江名物「どう行列」の始まりは江戸時代に行われた正月の行事・宮ねりでした。小さな太鼓が、現在使われているような大きな鼕になりました。

相撲

松江藩は多くの力士を抱えていました。全国の相撲で活躍した力士達が、殿様とともに出雲に帰ってくると、楽山や白潟天満宮付近などで相撲が行われました。番付が作られ力士のブロマイドとも言える錦絵が出回り人々は相撲に熱狂しました。

大関・雷電

横綱・陣幕（右、東出雲町出身）

不昧が育てた松江の文化

松平不昧

茶の湯文化

不昧こと松平家７代藩主・治郷は、お茶とお菓子で有名な殿様です。茶会で使うための多くの茶道具を集め、研究し、書物にまとめたことで知られています。不昧の好みのお菓子は 100 種類以上あったとも言われています。

お菓子の文化

「若草」は、明治 30 年ごろに復元され、現在まで伝わっています。「姫小袖」は、藩主に命令されたときにだけ作ることを許されたお菓子でした。「山川」は日本三大銘菓の一つに数えられています。「菜種の里」は、不昧が春の茶会に好んで用いたお菓子で、昭和 4 年に復元され、現在に伝わります。

若草

姫小袖

山川

菜種の里

松江で最も古い茶室「伝利休茶室」

松江歴史館には天下一の茶の湯の名人といわれた千利休のものと伝わる茶室が復原されています。不昧は質素で静かな雰囲気を大切にする利休の茶の湯にあこがれていました。３畳ほどの小さなこの茶室は、松江藩の家老を勤めた大橋家から、宍道町の木幡家に伝わったものです。

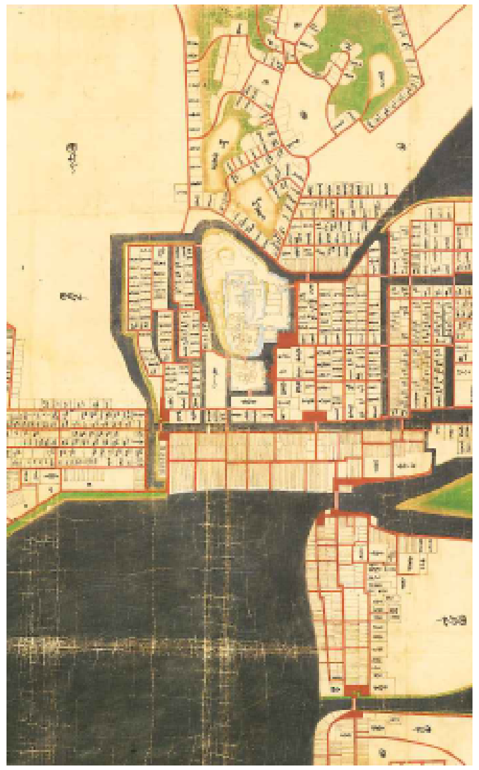
もっとじっくり見学したい人へ

松江歴史館では、市内６年生に松江の歴史についていつでも好きなだけ学んでもらえるように年間パスポート（無料で何度でも使えます）をさしあげます。パスポートは、松江歴史館に来た時に受付で「名前・学校名・学年・学級」を書けばもらえます。

松江歴史館で松江について学ぼう

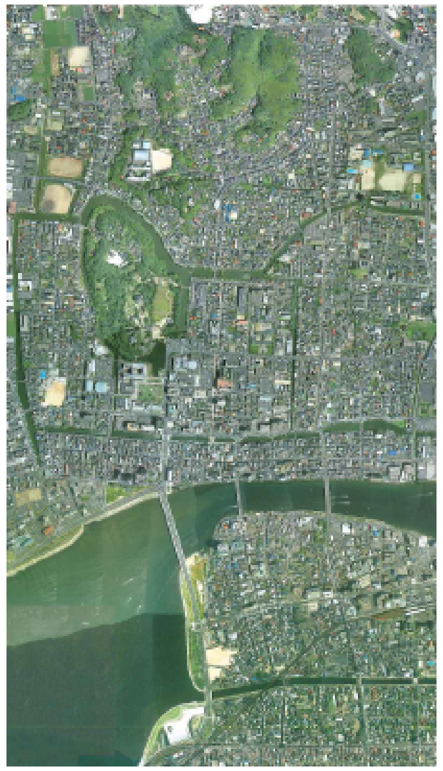
学校名：　　　　　　　６年　　組　氏名：

昔の松江　400 年前からまちの形が変わっていません



1600 年代

1800 年代



2000 年代

松江藩の拠点・松江城　守りの要と政治の場

天守の完成時期を明らかにした祈祷札（国宝附）

松江城天守（模型）

松江城内の建物の屋根にあったと伝わる鯱瓦

「慶長十六年正月」と墨で書かれた２枚の祈祷札が松江城天守の地階の柱に打ちつけられていたことが判明しました。これによって 1611 年の正月には天守が完成したことが分かりました。

江戸時代が終わり明治時代になると天守以外の松江城内の建物は売払われて解体されてしまいました。そのときの建物の部材がわずかに残っています。

松江藩のお殿様

堀尾家　松江の開府

1600年、関ヶ原の戦いの功績により、堀尾忠氏は出雲国と隠岐国の領主となります。忠氏は、土地が広く水運に便利な松江に城を築くことを決めましたが、完成前に若くして亡くなります。忠氏の父吉晴は、幼い忠晴（2代藩主）を助けながら、5年かけ松江城と城下町をつくりあげました。

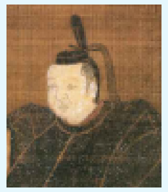
松江開府の祖
堀尾吉晴

初代藩主
堀尾忠氏

二代藩主
堀尾忠晴

京極家　治水事業に名を残す

男の子どもがいなかった堀尾忠晴に代わり若狭国（福井県）小浜から松江藩主になった京極忠高は、子どもに恵まれず、45歳で亡くなり、京極家は3年半で断絶しました。短い期間でしたが、忠高は治水工事に取り組み、斐伊川と伯太川の川土手の工事に成功し、地域の人々に感謝されました。


京極忠高

松平家　200年間松江を支えたお殿様

松平家初代藩主　松平直政

京極家に代わって、信濃国（長野県）松本から将軍・徳川家康の孫である松平直政が18万6000石の松江藩主になりました。7代藩主は、茶人で有名な治郷（不昧）です。10代藩主・定安の時に明治維新をむかえるまで松平家は、約230年続きます。

鉄砲の進化により甲冑も頑丈なものになっていきます。鉄砲から身を守るため長方形の小さい鉄板をつなぎあわせており、重さは20キロ以上あります。

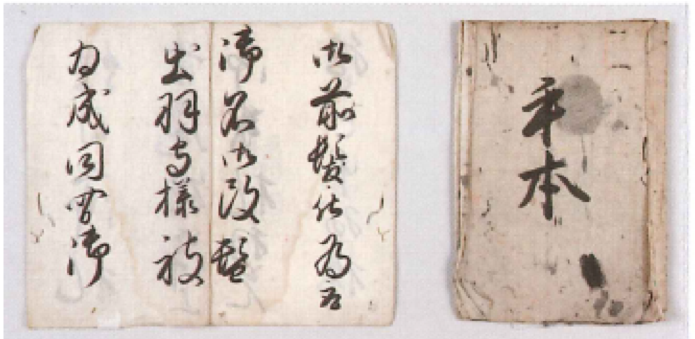
松江藩士の甲冑

松江藩の大名行列

9代藩主の松平斉貴は将軍の代わりに天皇にお祝いを述べる大役を務めました。その際に、総勢1767人で行列をつくり江戸の屋敷を出発して天皇が住む京都に向かいました。

松江藩の教育

侍やその子どもたちが通う学校・藩校の教科書です。藩校は、現在の県民会館の駐車場の所にありました。


寺子屋の教科書「手本」です。文字を習うため、模範とする文字を書いた本です。

江戸時代の終わりには、全国的に私塾が盛んにつくられました。松江藩の私塾では、島根初の内閣総理大臣・若槻礼次郎など多くの偉大な人物が勉強しました。

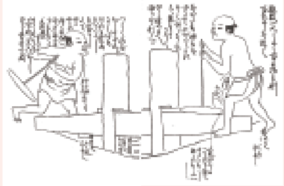
若槻礼次郎

松江藩を支えた産業

櫨ろう

櫨の実をくだき、蒸し、しぼり、ロウにしました。

櫨の実


「木実方秘伝書」挿絵

御種人参

御種人参

大根島産で有名な薬用人参です。高価な薬で、長崎から清（中国）へも輸出しました。人参で得た利益によって軍艦を買うことが出来たという説もあります。

人参方の千両箱
（お金を入れる箱）

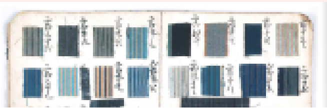
鉄製品

奥出雲のたたらで製鉄をし、鉄製品の材料として他の藩に売り出していました。鉄製品は藩内では作らず、他藩から買っていましたが、釜甑方（鉄製品を作る係）を現在の幸町に設置してからは、藩内でも鉄製品がつくられるようになりました。

鉄製品の原材料となる銑

木綿

17世紀ごろになると、全国的に木綿が麻の代用品として衣料品の生地に使われるようになりました。松江藩でも綿作が奨励され、木綿は藩の主力な産物となりました。


小倉織縞手本

ドンザ

年代　藩主とできごと

※青字は全国的なできごと

- 1600 **1 堀尾 吉晴**
- **1 堀尾 忠氏**
  - 関ヶ原の戦い（1600）
  - 徳川家康が江戸に幕府を開く（1603）
  - 堀尾吉晴・忠氏親子の城地選定（床几山）
- 1604 **2 堀尾 忠晴**
  - 松江城と城下町づくり（1607～1611）
  - 大海崎石が切り出されて松江城の石垣材として運ばれる
  - 忠晴が玉造温泉を再興
- 1633 **1 京極 忠高**
  - 忠高が斐伊川と伯太川に大土手「若狭土手」造成工事始める（1634）
- 1638 **1 松平 直政**
  - 鎖国完成（1641）
  - ホーランエンヤの始まり（1648）
  - 初代周藤弥兵衛家正による八雲日吉村の意宇川「切通し」「川違え」工事開始（1650）
  - 直政が将軍の名代として上洛する（1663）
- 1666 **2 松平 綱隆**
  - 松江藩から広瀬藩（三万石）と母里藩（一万石）を分藩する（1666）
- 1675 **3 松平 綱近**
  - 倉崎権兵衛が楽山焼を始める（1679）
- 1704 **4 松平 吉透**
- 1705 **5 松平 宣維**
- 1731 **6 松平 宗衍**
  - 延享（御趣向）の改革を始める（1747）
  - 木実方を設置する（1748）
  - 釜甑方を設置する（1756頃）
  - 藩校「文明館」を開設する（1758）
- 1767 **7 松平 治郷**
  - 明和（御立派）の改革を始める（1767）
  - 杉田玄白「解体新書」を出版（1774）
  - 明々庵、建つ（1779）
  - 布志名焼、藩窯となる（1780）
  - 月照寺寿蔵碑（大亀の石）建つ（1782）
  - 佐陀川開通（1788）により加賀湊と中継港恵曇がにぎわっていく
  - 菅田庵建つ（1790頃）
  - 本居宣長「古事記伝」をあらわす（1798）
  - 観月庵、建つ・楽山窯、再興（1801）
  - 小村茂重が日光（今の栃木県）で御種人参栽培を学んで帰郷（1804）
- 1806 **8 松平 斉恒**
  - 人参方を設置する（1813頃）
  - 伊能忠敬「日本地図」が完成（1821）
- 1822 **9 松平 斉貴**
  - 斉貴が将軍の名代として上洛する（1847）
- 1853 **10 松平 定安**
  - ペリーが浦賀に来る（1853）
  - 若槻礼次郎が雑賀町に生まれる（1866）
  - 徳川慶喜が大政奉還を行う（1867）
  - 定安が松江藩知事に任命される（1869）
- 1869

編集・発行：
松江歴史館
発行日：
令和3年6月

〒690-0887
島根県松江市殿町279
TEL : 0852-32-1607
FAX : 0852-32-1611